

『トキと共生する佐渡の里山』 新潟県佐渡市

世界農業遺産保全計画（第3期）



計画期間：令和3年4月～令和8年3月

佐 渡 市

令和3年4月

農林水産業システムの概要

1 システム名称

トキと共生する佐渡の里山

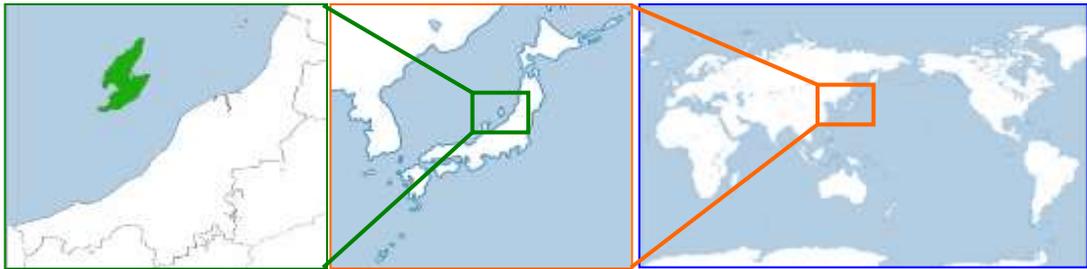
2 推進団体

佐渡市

3 位置

新潟県佐渡市

新潟県の沖合いに位置しており、本土から約 35 km北西の日本海上に位置する日本海最大の有人離島。



4 交通アクセス

東京都から最短のアクセス方法は上越新幹線。東京駅から最寄りの新潟駅までの移動時間は、約 2 時間 30 分。新潟港から両津港まで、カーフェリーで 2 時間 30 分、高速船で 1 時間 7 分。距離にして、新潟港の西方約 67 km、直江津港の北方約 78 km。



5 面積・周囲

佐渡島は、総面積 855.67 km²で、周囲 280.9km の海岸線を有している。

6 地域の農業生態学的分類

離島、高温多湿、水田・果樹園地域

7 地形的特徴

北の大佐渡山地と南の小佐渡丘陵に挟まれた中央の国中平野には、島で流域面積最大の国府川が流れ県内有数の穀倉地帯を形成している。

8 気候区分

佐渡の気候は、海洋性で四季の変化に富んでいる。夏は高温多湿で、冬は日本海を北上する対馬暖流の影響を受け、積雪は少ない。2015 年から 2019 年までの平均でみると、平均気温 14.4℃、年間降水量 1515.7mm。

9 人口

52,907 人 (2021 年 1 月末)

10 主な生計源

農業、観光業

11 システムの概要

佐渡での稲作の始まりは約 2,000 年前からといわれており、島の中央部の湿地を中心に行われていた。17 世紀に入ると佐渡の北西部に位置する相川金山で純度の高い金銀が発見され、採鉱によるゴールドラッシュによって全国各地から富を求めた人々が島に渡り人口が爆発的に増えた。急増する人口に伴い、新田開発が促され平野部以外でも海岸線に広がる海岸段丘面や急傾斜地の開墾を進めたことが、後の棚田につながるなど、佐渡金銀山の発展が現在の佐渡の農地の基礎となっている。また、人々の往来によって様々な芸能文化が流入し、今日の多様な農文化を形成した。

島には水田、畑地、林地、ため池、水路等から構成される里地里山が広がっており、米・野菜・果樹・畜産を中心とする多彩な農業が展開されている。

また、国内の野生トキが最後まで生息した地域であったため、2008 年から生息域外で飼育・繁殖させたトキの放鳥が始まった。トキの野生復帰には水田をはじめとする水辺環境をトキの餌場として整備する取り組みが不可欠となるため、放鳥に

先立ち 2007 年から始めた「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」は、失われた生息環境を取り戻す環境整備と佐渡産米の高付加価値化の両立を目指して制度化したものである。認証要件としては、「生きもの調査を年 2 回実施していること」や「農薬や化学肥料を減らして（地域慣行比 5 割以上の削減）栽培されたお米であること」など 5 項目となっている。認証機関は佐渡市であるが、認証要件の見直しや検討などは、認証農家や J A などの関係者で構成される「朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会」で行われ、ボトムアップの取り組みが特徴である。制度開始当初は、農家戸数 256 戸、認証面積 426ha からスタートし、2020 年には農家戸数 393 戸、認証面積 1,044ha まで増加した。

「生きものを育む農法」は、年間を通して生きものが生息できる場所となる「江」と呼ばれる用水路の設置や冬期間に田んぼを乾燥させない「ふゆみずたんぼ」など 5 つの項目から 1 つ以上選択して実施することとなっており、この制度の代表的な取り組みとなっている。また、認証要件は、島の環境や生産現場の状況を分析しながら見直しを続けており、2017 年には「畦畔除草剤の不使用」を追加、2020 年には「エコファーマーの認定」を除外した。手法や取り組みを見直しながら次世代に農林水産業システムを継承していくことは世界農業遺産の理念にもつながる。

「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を中心に環境保全型農業に取り組んだことは、トキの個体数増加の 1 つの要因となった。環境省が 2016 年 3 月に定めた「トキ野生復帰ロードマップ 2020」では、トキが自然状態で安定的に存続できることを目指して、「2020 年頃に佐渡島内に 220 羽のトキを定着させる」という目標を設定し、2018 年に目標を達成した。2020 年 12 月現在、野生下のトキは推定約 442 羽とされており、佐渡の農家をはじめ地域住民の取り組みは環境省から評価されている。

以上のように、農業と環境を両立させ、棚田や海岸段丘など上手く利用しながら素晴らしい景観を残し歴史や多彩な伝統芸能などを継承し続け、生物多様性の保全に取り組む農業システムとなっている。



目次

第1	はじめに	5
第2	課題への対応策	8
1	食料及び生計の保障	8
2	農業生物多様性	17
3	地域の伝統的な知識システム	23
4	文化、価値観及び社会組織	25
5	ランドスケープ及びシースケープの特徴	27
第3	モニタリング方法	30
第4	考察	31

第 1 はじめに

本計画書は、F A O（国際連合食糧農業機関）が行う世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage Systems; G I A H S）に認定された当地域が取り組み実践するプロジェクトの概要を示すものである。

当地域は、「トキと共生する佐渡の里山」として世界農業遺産に認定されているが、絶滅の危機にさらされた生物種の保護というだけでなく、トキを象徴種として、生きもの豊かな里山環境を育むこと、すなわち、生物多様性の保全というグローバルミッションに寄与する農業システムである。生きもの豊かな里山環境を保全するために、これまで環境保全型農業を柱に取り組みを展開してきた。

これらの取り組みからは持続的な発展に向けた成果を一定程度生み出すことができたものの、急激な人口減少、農業離れ、ツーリズムの低迷などが生じており、引き続き検討しなければならない課題も多い。本計画書では、「トキと共生する佐渡の里山」の発展と継承に向けて、世界農業遺産の 5 つの認定条件に沿って課題の分析と解決策の検討を行う。今後 5 年間で目指すべき方向性やビジョンを再定義し、具体的な活動指針を明示する。

佐渡島は日本産のトキが最後まで生息していた島であり、絶滅後、トキの野生復帰プロジェクトをきっかけにトキが生息できる環境を取り戻そうと、2007 年に「生きものを育む農法」として生態系の再生と農業技術を組み合わせた「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」を開始した。トキの餌場の整備を進め、多くの生きものが生息できる環境を創出するとともに、農業を持続的に続けていくうえで生物多様性の保全と農業経済の両立を目指す取り組みが続いている。また、島内の地域コミュニティでは、農業などの営みの中で鬼太鼓や能をはじめとした多様な伝統芸能が継承されている。これらの取り組みが評価され 2011 年に国内で初めて世界農業遺産に認定された。

しかし、本市の人口は、1950 年の 125,597 人をピークに減少が進み、2015 年の国勢調査の数値では 57,255 人となり毎年約 1,000 人ずつ減少していく中で、2021 年 1 月末現在、52,907 人となっている。更には、2018 年の高齢化率も全国平均の 27.7%を大きく上回り、41.2%となっている。今後の人口に関しては、国立社会保障・人口問題研究所の推計値では 2045 年には 29,470 人となり、3 万人を下回って現在の約半数になると予想されている。特に佐渡の少子高齢化は国内の 20 年先を進んでいるといわれている中、生産者の離農によって耕作面積が年々減少しておりシステム維持も困難になる課題に直面している。

別紙様式第 2 号

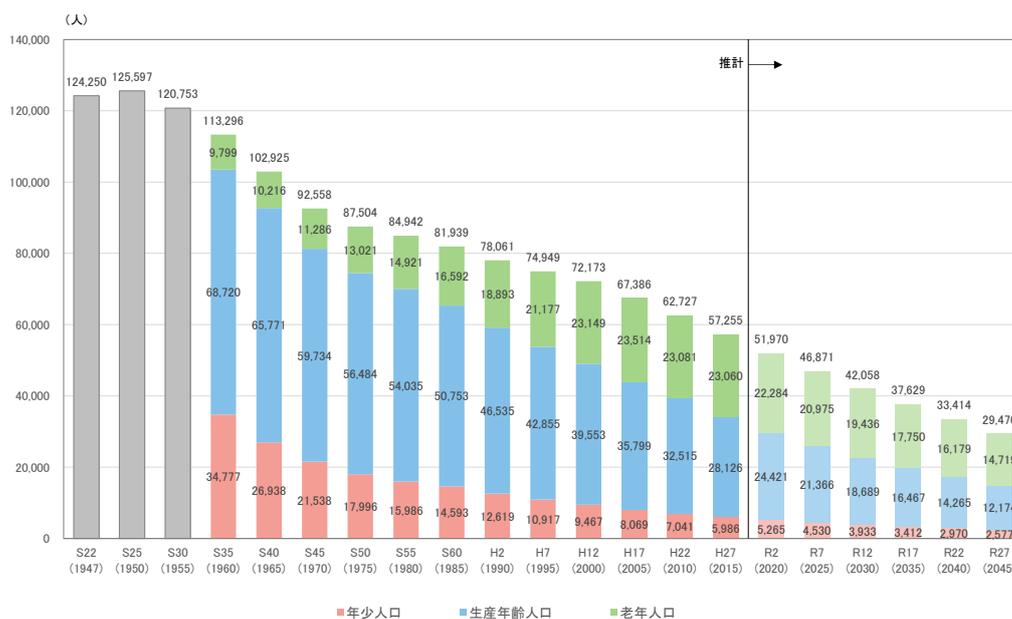


図 総人口及び年齢三区分別人口の推移・推計 資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

産業分類別就業者割合では、一次産業は概ね横ばい、二次・三次産業は増減しながら推移している。本市の基幹産業の1つである農業は、水稻を主体とした経営形態であり、地域性を活かして、国中平野では稲作、南佐渡では柿をはじめとする果樹栽培、海岸段丘では稲作と肉用牛の飼育が行われている。

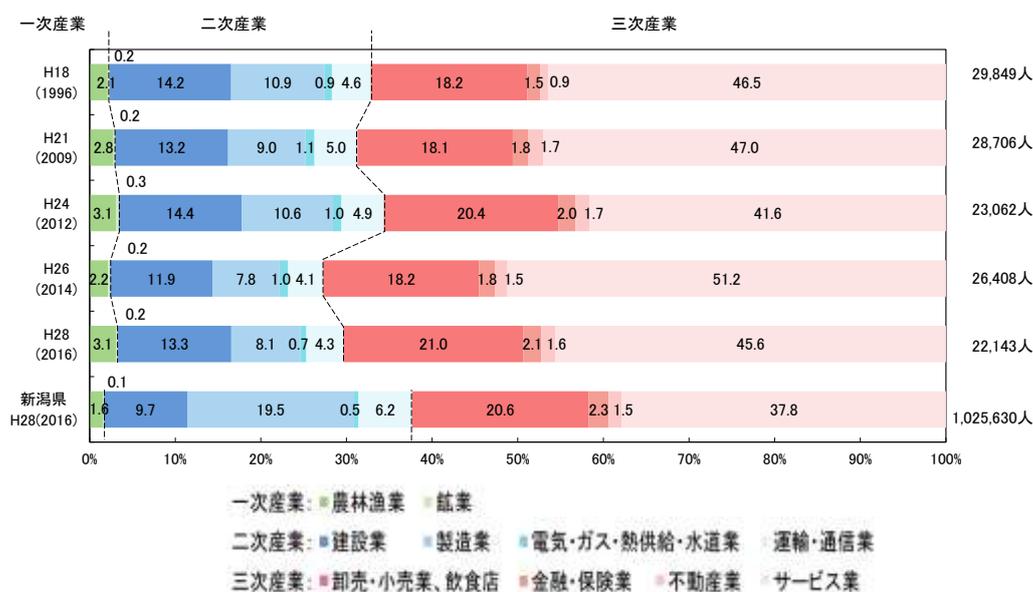


図 産業区分別就業者の推移 資料：経済センサス、事業所・企業統計調査

佐渡観光入込者数は1991年の120万人をピークに減少を続け、2014年時点で約51万人まで減少したが、その後、2019年まで横ばい傾向が続いている。2021年の佐渡への入込者数は、コロナウイルスの影響により254,134名と推計され前年比51.3%（クルーズ船を除く比較）となった。

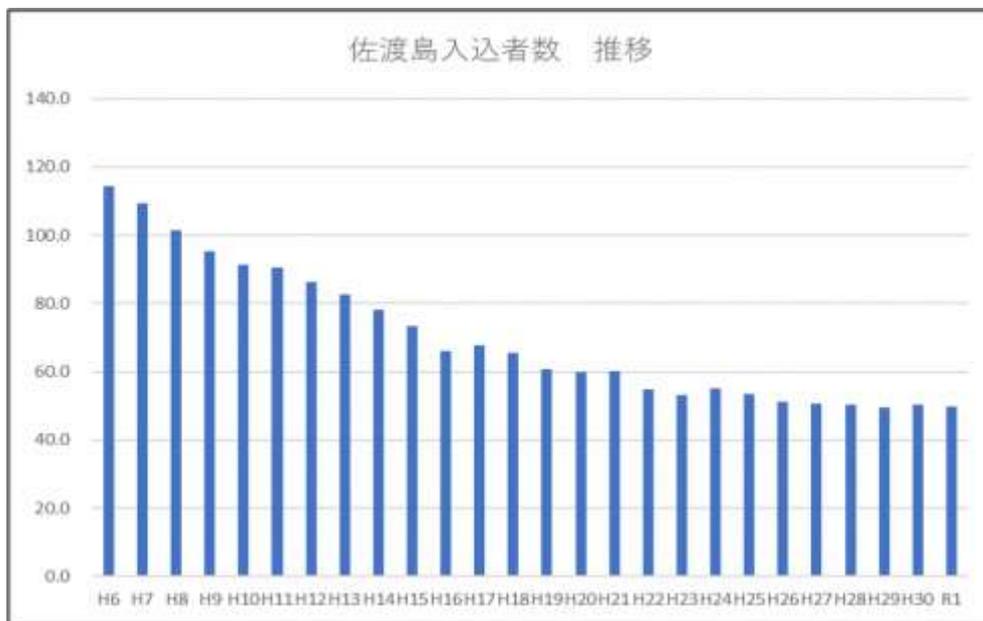
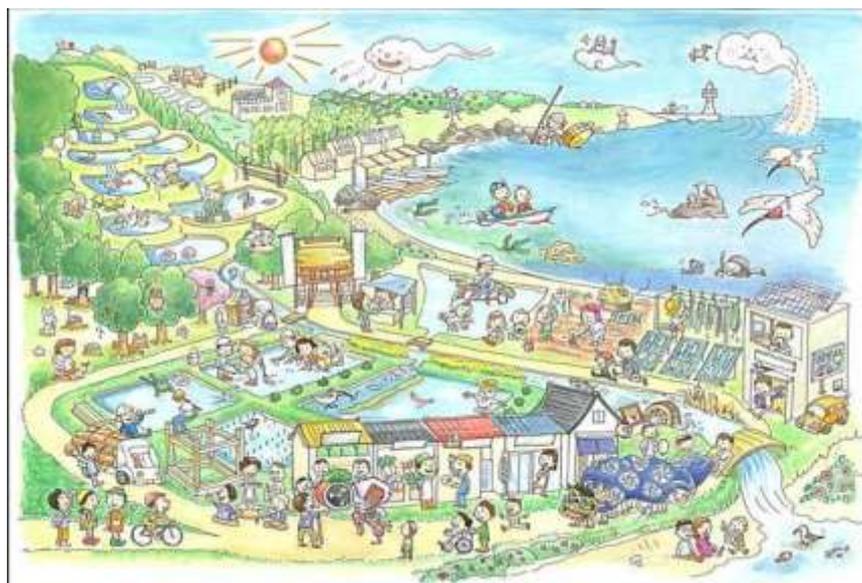


図 佐渡島入込者数の推移 提供：佐渡観光交流機構

佐渡が世界農業遺産に認定されて9年が経過した。この間「佐渡G I AHSプロジェクト アクションプラン」の第1期（2011～2015）と第2期（2016～2020）に沿って取り組みを進めてきた。本アクションプランでは、これまでの取り組みで達成することができた成果及び今後の課題を整理し、今後、目指すべき方向性やビジョンを改めて定義しながら第3期保全計画を策定し、次の5年間の活動指針とする。

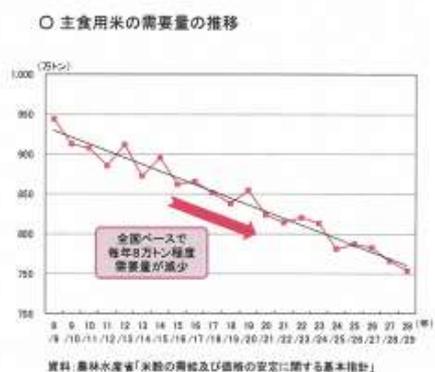
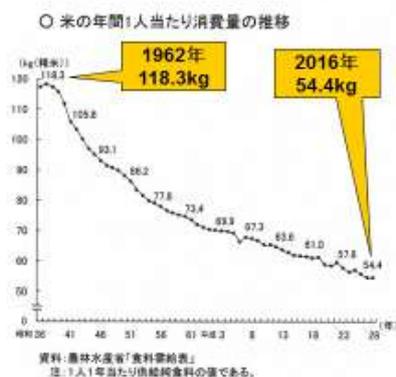
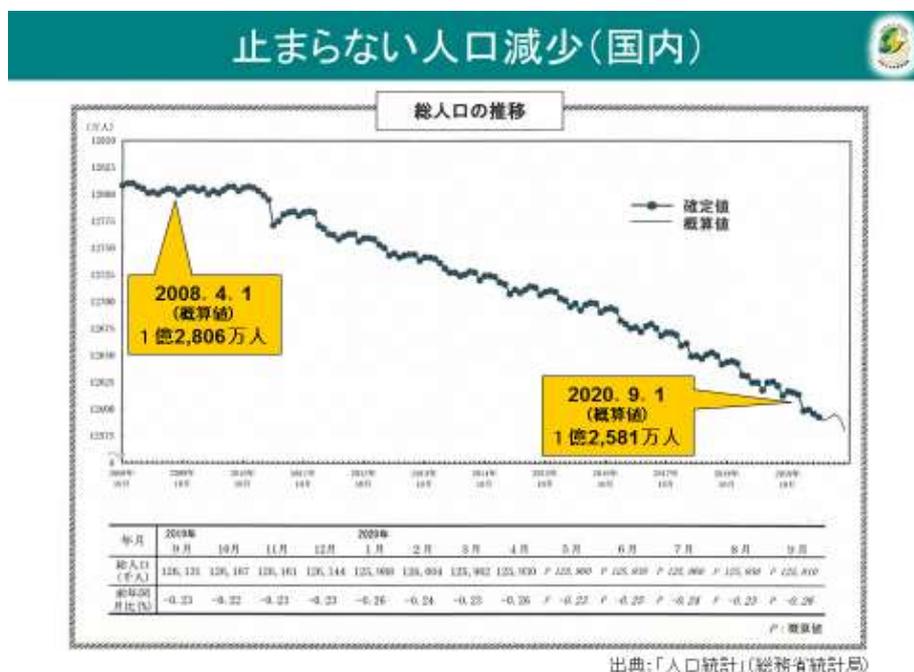


第2 課題への対応策

1 食料及び生計の保障

A 脅威及び課題の分析

- 国内における米の栽培面積及び収穫量は減少傾向であり、当地域においても一定の生産体制を維持しているが、高齢化率が41.2%と今後の国内でも押し寄せる少子高齢化の課題に直面している。また、米の年間1人あたりの消費量も減少しており、ピークとなった1962年の118.3kgから2016年には半分程度の54.4kgまで減少している。また主食用米の全国ベースでの需要量は毎年約8万トンの減少傾向を示している。国内の米産業を支えるために、今後、地域と一体となった取り組みの強化が必要となる。



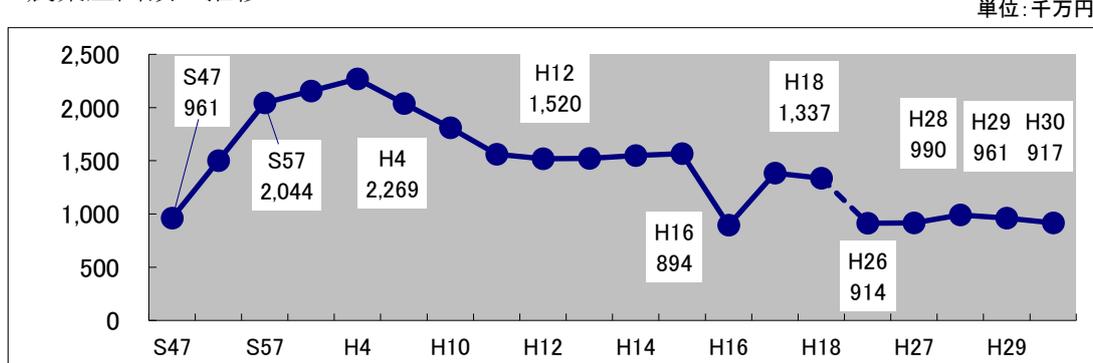
出典:「人口統計」(総務省統計局)、農林水産省「食料需給表」・「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」

- ・佐渡産コシヒカリは区分上場に加え佐渡市の「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」をはじめとした環境保全型農業の推進による付加価値化によりブランドが確立され、実需者や消費者から高い評価を得ている。しかし、経営規模に関わらずコシヒカリに偏重した経営体が多く、台風等の気象災害などに遭遇すると品質や収量低下に著しく影響を与えるため、米産地としての生産基盤は不安定となっている。
- ・離農や担い手の減少に伴い、中核となる経営体に農地集積が進み経営規模が拡大しているが、作付品種の集中により適期の作業が難しくなっている。経営体の所得確保と需要に応じた「佐渡米」の生産拡大を実践するため、異常気象に対応した基本技術の励行により、コシヒカリ等の品質向上及び良食味確保を図る取り組みを推進している。一方で高齢化の影響により、佐渡の販売農家数は、4,313戸（2015年）で5年前に比べて約1,000戸減少しており、200戸/年のペースで減少が続いている。

■佐渡市の農業従事者 出典：世界農林業センサス

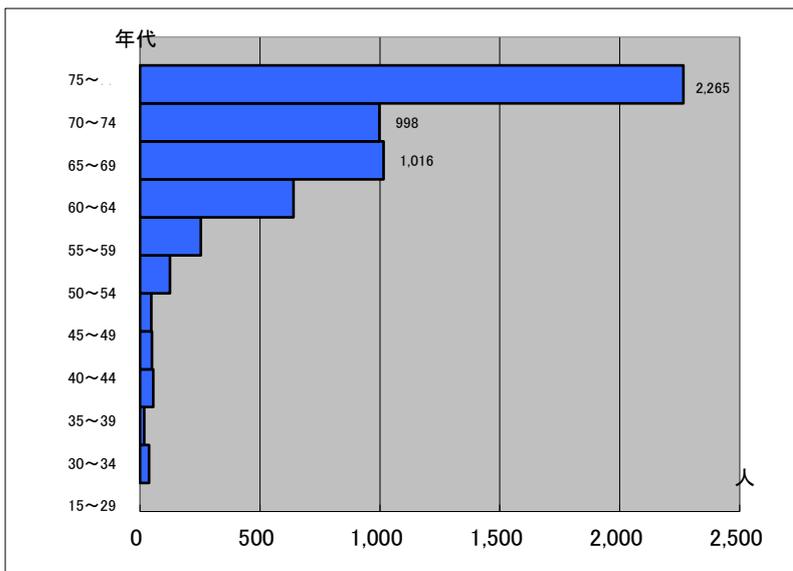
年度	農業就業人口（人）			基幹的農業従事者数（人）			
	合計	男	女	合計	男	女	65歳以上
H27	6,332	3,292	3,040	5,506	3,067	2,439	4,279
H22	8,581	4,156	4,425	6,827	3,695	3,132	5,089
H17	9,762	4,485	5,277	6,605	3,517	3,088	4,805
H12	10,490	4,614	5,876	6,475	3,241	3,234	4,284

■農業産出額の推移



出典：新潟農林水産統計年報、市町村別農業産出額（推計）

※平成19年から平成25年までは市町村別の数値が公表されていない。

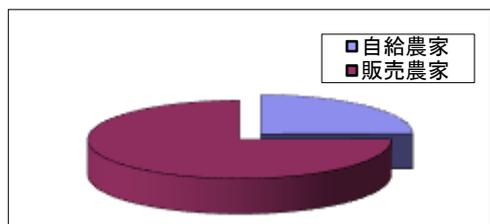


75 歳以上が 2,265 人、70 歳から 74 歳までが 998 人、65 歳から 69 歳までが 1,016 人と、基幹的農業従事者のうち 65 歳以上の人が 78% (県平均 70%) を占める。

■佐渡市の農家数 出典：国勢調査、世界農林業センサス

年度	総世帯数	総農家数	販売農家数			
			合計	主業農家	準主業農家	副業的農家
H27	22,401	5,927	4,313	584	1,366	2,363
H22	23,755	7,103	5,333	812	1,746	2,775
H17	24,604	8,069	6,360	842	1,732	3,786
H12	25,418	8,663	7,271	940	2,331	4,000
H7	24,893	9,522	8,180	1,603	2,725	3,852

佐渡の総世帯の約 1/4 が農家世帯

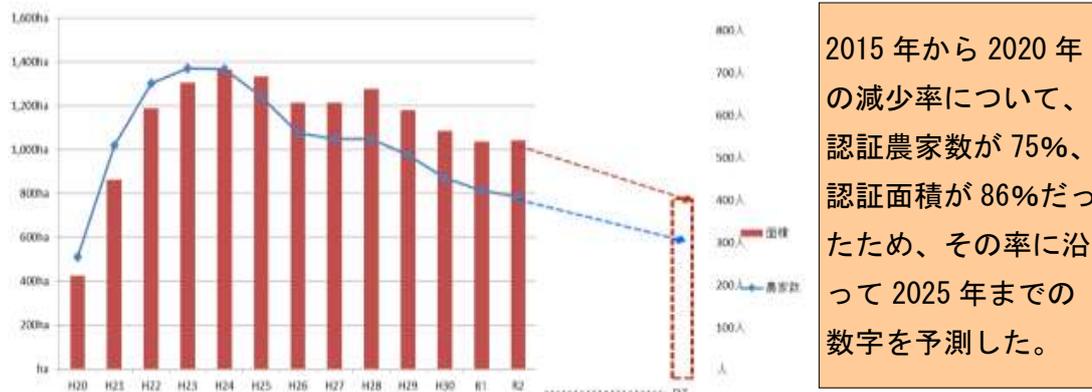


総農家数のうち販売農家は 73% を占める。

- ・農業法人は農地の受け皿として地域の農業において重要な役割を担っている。各地域において持続可能な営農体制を確立するためには、さらに農業法人を育成する必要がある。また「人・農地プラン」の話し合いを通じて、担い手への農地集積や基幹作業の集約化、あるいは新たな組織設立により地域にあった営農計画の推進を図る必要がある。
- ・2007年に開始した「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」は、トキが舞う佐渡を目指し、餌場の確保と佐渡産農林水産物のイメージアップを目的に、生きものを育む農法等の基準を定めた。この栽培方法等の情報を消費者等へ効果的に伝えることにより、安心な環境でより安全な農産物の生産及び円滑な流通の促進につなげている。下図のように、2008年に256戸の農家戸数、426haの面積でスタートした取り組みは、年々順調に戸数と面積を増やして全体の水稻作付面積の2割にあたる数値まで伸ばした。しかし、2012年をピークに微減が続いている。この傾向で進

むと、2025年には認証農家が約300人、認証面積が約900haまで減少することが見込まれている。これは佐渡市の認証米である「朱鷺と暮らす郷」の出荷量などに大きな影響を及ぼすことが懸念される。

■朱鷺と暮らす郷づくり認証農家・面積の推移および予測



2015年から2020年の減少率について、認証農家数が75%、認証面積が86%だったため、その率に沿って2025年までの数字を予測した。

出典：佐渡市

B 脅威及び課題への対応策

(1) 農業遺産システムの効果検証

ア 朱鷺と暮らす郷づくり認証制度の見直し

・令和元年度第3回世界農業遺産等専門家会議において「認証制度等の今後の展開目標についても検討」や「単にトキの定着数を評価するのではなく、世界農業遺産の取組との因果関係を整理し、取組の効果を評価していく必要性」等の助言をいただいた。これらの助言事項に対する対応として、環境に配慮して栽培する「朱鷺と暮らす郷」の認証要件等の効果検証について、定期的に検証している調査に加え、特に消費者に伝えている情報の根拠を調査研究し、その結果を農業経済へつなげるよう活用する。これらの検証を通して認証要件を見直し、認証農家・面積の増加に向けて持続可能な制度の構築につなげる。

- a 成果目標…「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」の効果検証
 認証農家数 393戸 (R 2) → 400戸 (R 7)
 認証面積 1,044ha (R 2) → 1,100ha (R 7)

- b 貢献度…「朱鷺と暮らす郷」の認証農家・面積の増加

- c 関与者…朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会、JA、研究機関、佐渡市、地域

- d 予算等…朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会、佐渡市

イ 認証農家に対する生物多様性の意識・技術の向上

- ・ 認証制度も開始から 10 年が過ぎ、認証農家の中でも当初の理念が薄れてきている状況がみられるため、生物多様性や環境に配慮した農業の勉強会やより効果的な認証要件の技術取得につながる研修会を実施する。

- a 成果目標…認証農家に対する勉強会・研修会の実施 毎年実施
- b 貢献度…認証農家に対する生物多様性の意識・技術の向上
- c 関与者…朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会、J A、佐渡市、地域
- d 予算等…佐渡市

(2) 新たな米政策に対応した水田農業の確立

ア コシヒカリ等の品質向上に向けた栽培指導

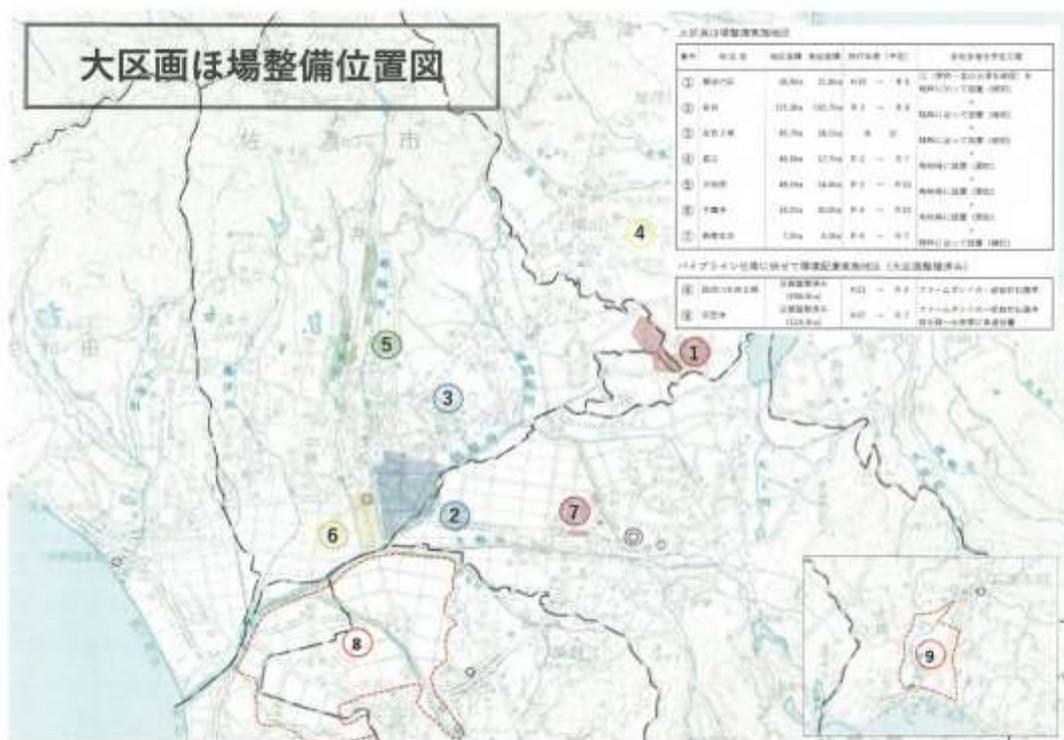
- ・ 異常気象に対応した基本技術の励行により、コシヒカリ等の品質向上及び良食味確保を図る。

- a 成果目標…佐渡米未来プロジェクト「品質向上 90」サポーターのコシヒカリ 1 等米比率 73.9% (R 2) → 90% (R 7)
- b 貢献度…新たな米政策に対応した水田農業の確立
- c 関与者…新潟県佐渡農業普及指導センター、J A、佐渡市、地域
- d 予算等…佐渡市

イ 大区画ほ場整備と環境保全

- ・佐渡の農地面積は、新潟県統計年鑑令和元年度版によると、水田 8,480ha、畑 1,460ha、計 9,940ha となっており、島の総面積に対して 11.6%を占めている。
- ・2019 年度末において、佐渡の水田は、8,480ha の面積に対して 5,619ha が整備され、県平均 63.5%を若干上回る 66.3%の整備率となっている。
- ・すでに計画、施行されている事業においては、常時一定の水深を確保するための江（え）の設置が予定されている。また、今後の大区画ほ場整備については、新しい工法などの情報を収集し、環境や農業生物多様性にも配慮した新しい農業基盤整備を関係機関と検討する。

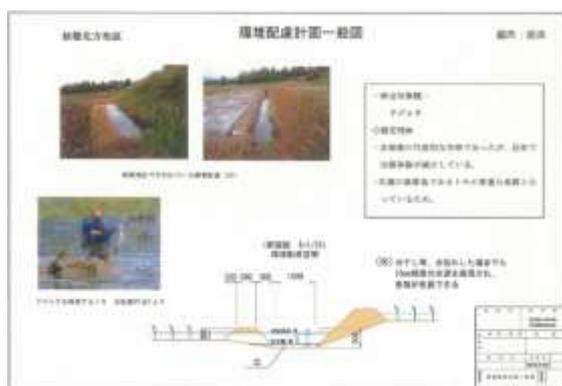
- a 成果目標…佐渡の大区画ほ場の新しい基盤整備についての検討
- b 貢献度…新しい農業基盤整備と環境保存
- c 関与者…新潟県、佐渡土地改良協会、J A、佐渡市
- d 予算等…新潟県、佐渡市



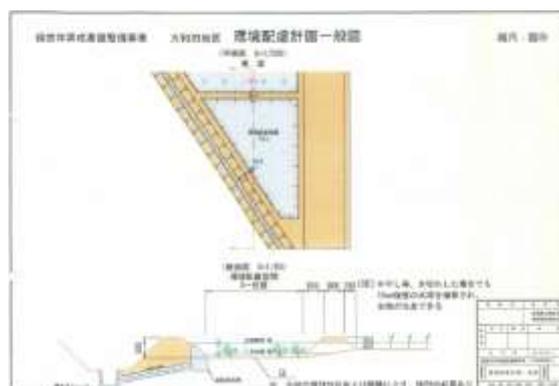
■大区画ほ場整備実施地区一覧

番号	地区名	地区面積	受益面積	施行年度(予定)	生物多様性予定工種
①	開田六区	36.8ha	31.8ha	H30～R5	江を畦畔に沿って設置(線的)
②	新貝	121.9ha	101.7ha	R2～R9	江を畦畔に沿って設置(線的)
③	新貝2期	45.7ha	38.1ha	未定	江を畦畔に沿って設置(線的)
④	長江	46.8ha	37.7ha	R2～R7	江を角地等に設置(面的)
⑤	大和田	48.5ha	34.4ha	R3～R10	江を角地等に設置(面的)
⑥	千種沖	34.0ha	30.0ha	R4～R10	江を角地等に設置(面的)
⑦	新穂北方	7.3ha	6.3ha	R4～R7	江を畦畔に沿って設置(線的)
⑧	国府川左岸2期	区画整理済み(658.9ha)		H21～R6	ファームポンドの一部自然石護岸
⑨	羽茂沖	区画整理済み(114.1ha)		H27～R7	ファームポンドの一部自然石護岸 排水路～水田間に魚道設置

■江を畦畔に沿って設置(線的)事例



■江を角地等に設置(面的)事例



(3) 販路拡大の研究・推進

ア 消費者まで届く販売戦略の研究

・佐渡飯（サドメシ）が駆け巡る（ラン）という願いを込めて命名された「サドメシラン」は、佐渡産の食材を積極的に取り扱う島内外の飲食店等を佐渡産品提供店として認定し、販路拡大や佐渡ファンづくりにつなげる取り組みで、2021年2月現在、115店舗を認定している。店舗数の拡大と共に認定した提供店と密に情報共有を行いさらなる発信の強化を図る。

- a 成果目標…サドメシラン店舗数 115 店舗（R 2） → 130 店舗（R 7）
- b 貢献度…販路の拡大、佐渡の取り組みやイメージを届ける販売戦略
- c 関与者…J A、佐渡市
- d 予算等…J A、佐渡市

イ 都市部への学校給食導入の促進

・都市部の次世代を担う子どもたちの給食に「朱鷺と暮らす郷」を導入し、安心・安全なお米を食べてもらおうと共に食育や環境学習についても、協力・支援する。

- a 成果目標…導入校数 延べ0校（R 2） → 延べ10校（R 7）
- b 貢献度…新たな販路の獲得と次世代に安心安全な食材と教育の提供
- c 関与者…J A、佐渡市
- d 予算等…J A、佐渡市

ウ ふるさと納税、返礼品の強化

・生まれた故郷や応援したい自治体に寄付できる「ふるさと納税」は、佐渡市の実績として2019年度は、11,829件、約2億5千万円の寄付があり年々伸びている。その返礼品として圧倒的に多いのが「朱鷺と暮らす郷」であり、寄付額の約30%を占めている。また、取り扱い件数は少ないが、棚田米の申込件数も順調に伸びている。2019年にふるさと納税の検索サイトに世界農業遺産のブランドマークを掲載するなど、さらに寄付件数が伸びる仕掛けを研究し実践する。

別紙様式第2号

- a 成果目標…ふるさと納税の寄付額
2億5千万円（R1）→ 3億5千万円（R7）
- b 貢献度…返礼品の強化による認証米および佐渡産品の活用拡大
- c 関与者…佐渡市
- d 予算等…佐渡市

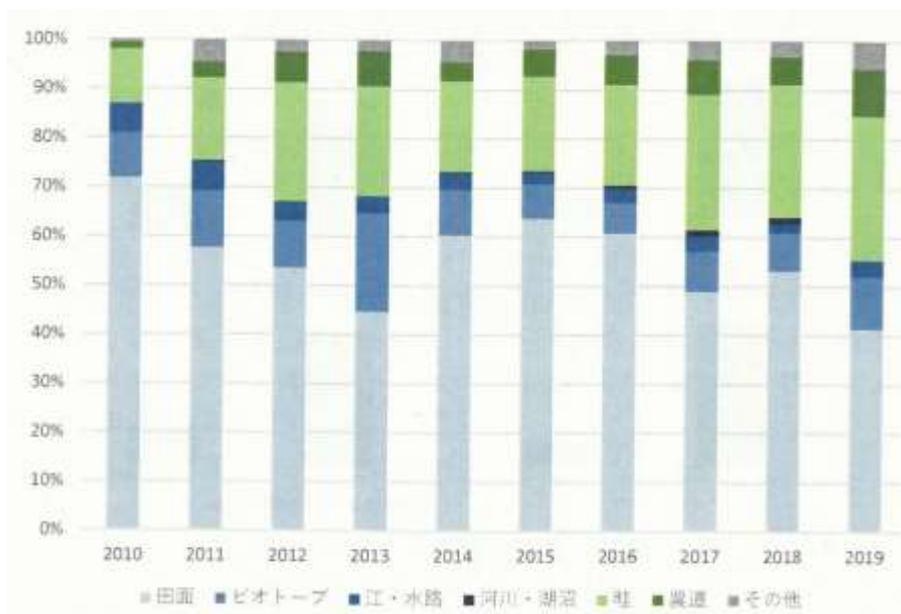
2 農業生物多様性

A 脅威及び課題の分析

- ・佐渡は、日本の野生トキの最後の生息地であり2008年から放鳥が続けられ、2020年12月末時点で野生下の個体数は推定442羽となっている。トキの野生復帰には、水田をはじめとする水辺環境をトキの餌場として整備する取り組みが不可欠である。そのため、農家や地域住民が共同で水田の生物多様性を確保するための条件整備と、「生きものを育む農法」による米づくりを進めている。その結果、生物多様性の保全と持続的な環境保全型農業の普及のみならず、農家の所得向上等、多面的な効果を生んでいる。2019年には環境省「レッドリスト2019」で野生絶滅から絶滅危惧ⅠA類に変更された。
- ・世界農業遺産等専門家会議において「単にトキの定着数を評価するのではなく、世界農業遺産の取組との因果関係を整理」との助言をいただいた。この助言事項に対する対応として、環境に配慮して栽培する「朱鷺と暮らす郷」の認証要件等の効果検証について、定期的に検証している調査に加え、特に生物多様性を高める認証要件の根拠となる調査を、環境省と連携しながら実施する。また、専門家会議から「平野部に定着したトキと共生していくためには、平野部の水田環境を整備することが重要である。(中略)大区画ほ場整備と併せてビオトープ等を作れば、大区画ほ場整備と環境保全が共存する良い例になるのではないか」との助言をいただいていることから、島全体の農業基盤整備の新しい方向性に向けて関係機関と検討を進めていく必要がある。



トキの個体数の推移 出典：環境省『第19回トキ野生復帰検討会配布資料』



トキの採餌場所の変遷 出典：環境省『第19回トキ野生復帰検討会配布資料』

B 脅威及び課題への対応策

(1) トキ保護増殖事業計画に基づいたトキ野生復帰の推進

ア 生態環境の保全・再生とモニタリング

・環境省は、トキ保護増殖事業計画に基づいたトキ野生復帰の取り組みを進めており、2025年度までの行程表である「トキ野生復帰ロードマップ2025」の最終案を2020年度にとりまとめ、2021年6月頃に策定する予定である。この計画では、佐渡島で生息する野生下のトキが過密にならず、遺伝的多様性を維持しながら個体数の増加傾向を維持することを2025年度までの短期的な目標としている。「トキと共生する佐渡の里山」の取り組みにおいても、この目標に向け生息環境の保全や再生の取り組みを進める。

- a 成果目標…野生下のトキの個体数（推定）442羽（R2）→安定的な増加
- b 貢献度…生息環境の保全と再生を進めることにより、トキ野生復帰ロードマップ2025 短期的目標の達成に貢献
- c 関与者…環境省、人・トキの共生の島づくり協議会、新潟県、佐渡市
- d 予算等…関係省庁、新潟県、佐渡市

イ 普及啓発等

- ・野生下のトキの情報をHPやSNSなどを活用して分かりやすく発信し、トキの野生復帰の取り組みについての理解者、応援者を増やす。

a 成果目標…トキファンクラブ会員数（累計）
8,395人（R2）→ 10,000人（R7）

b 貢献度…トキの野生復帰の理解者、応援者の増加

c 関与者…環境省、人・トキの共生の島づくり協議会、新潟県、佐渡市

d 予算等…環境省、新潟県、佐渡市

(2) 佐渡市生物多様性佐渡戦略の見直し

ア 生物多様性佐渡戦略の見直し

- ・2012年6月に策定した「トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略」では、目標期間を90年間（2100年目標）としている。「佐渡を知る・守る・使う」の3つの基本目標の中で、策定から10年が経過した現在、目標と現状が乖離した課題も生じており地域循環共生圏の創造という概念も取り込みながら見直す必要がある。COP15においてポスト2020生物多様性枠組の検討、そして、国内における次期生物多様性国家戦略の策定などの動向をみながら、適宜、見直しを行っていく。

a 成果目標…トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略の見直し

b 貢献度…現状と照らし合わせた佐渡戦略の見直しとさらなる推進

c 関与者…佐渡市生物多様性佐渡戦略推進会議、佐渡市

d 予算等…佐渡市

イ 生きもの調査を含むデジタルツールの開発

- ・ICTの活用により、保有する田んぼの状況把握や農作業のマネジメント等の管理が容易になる。佐渡市においては「生きもの調査」も組み込んだデジタルツールの開発を進める。
- ・2010年に佐渡市は「佐渡市生きもの調査の日」を宣言し、6月と8月の2回、島内の田んぼで生きもの調査を実施している。自分の田んぼにどれだけ生きものがあるかを認識し、生物多様性への理解を深めつつ、調査によって得られたデータ

の蓄積を進めてきた。今後は、データの蓄積だけではなく、生きものの種類や数量の比較などの活用を前提とした生きもの調査の見直しが必要である。デジタルツールを活用しながら見直しを進める。

- a 成果目標…デジタルツールの開発に向けた検討
- b 貢献度…デジタルツールを活用した作業管理と生物多様性のデータ蓄積
- c 関与者…佐渡生きもの語り研究所、朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会、新潟大学、佐渡市
- d 予算等…佐渡市

ウ 生物多様性市民アンケートの実施

・佐渡市では、生物多様性の恵みを受けながら地域が活性化することで人と自然が共生し、文化が守り育まれる社会の実現を目指す中で市民の意識調査を行い、この結果を基に施策へ反映させている。2013年の生物多様性に対する認知度は79.6%、2015年は78.4%であった。定期的に調査を行い市民の認知度を測る。

- a 成果目標…生物多様性の認知度 78.4% (H27) → 80.0% (R3)
- b 貢献度…生物多様性の市民の認知度向上
- c 関与者…佐渡市生物多様性佐渡戦略推進会議、佐渡市
- d 予算等…佐渡市

エ 世界農業遺産新潟県民アンケートの実施

・世界農業遺産の認知度について、2018年に新潟県が実施した県民アンケートでは、「知っている・聞いたことがある」と回答した割合は45.4%であった。2020年のアンケート結果は、45.2%であった。県内には2017年に中越地域が「雪の恵みを活かした稲作・養鯉システム」で日本農業遺産に認定されていることから、県内での農業遺産の認知度向上に向けてさらなる推進が必要である。

- a 成果目標…世界農業遺産新潟県民アンケート
農業遺産の認知度 45.2% (R2) → 70.0% (R7)
- b 貢献度…世界農業遺産の県内における認知度向上

c 関与者…新潟県

d 予算等…新潟県

(3) 環境学習（食育）の推進

ア 佐渡Kids生きもの調査隊の推進

・2008年から始まった「佐渡Kids生きもの調査隊」は、米作りを通して生物多様性や環境について学ぶ活動である。これまで延べ402人の隊員が入隊している。佐渡市内全域の子どもたちを対象にしていることから、活動を通して学区以外の子どもたちとの交流も図られていることから今後も継続して実施していくべき活動である。

■佐渡 Kids 生きもの調査隊の推移

年	2016	2017	2018	2019	2020	延べ人数
入隊数	28	21	39	36	37	402

a 成果目標…佐渡 Kids 生きもの調査隊人数（延べ）

402 人(R 2) → 550 人 (R 7)

b 貢献度…次世代の環境学習の活動

c 関与者…佐渡市、佐渡市教育委員会

d 予算等…佐渡市

イ 小学校から大学まで連動した教育カリキュラムの検討と構築

・「佐渡Kids生きもの調査隊」を卒隊した大学生が、2020年にインターンシップとして佐渡市を訪れた。持続可能な人材循環の構築を目指し、このような小中学校から自然環境などを学んだ子どもたちが、進学によって得た知見や経験を佐渡の自然環境や農業などに活かすことができるようなルート作りについて検討する。

a 成果目標…小学校から県内の大学まで連動した教育カリキュラムの検討

b 貢献度…育成から担い手確保につなげる人材育成のシステム構築

c 関与者…佐渡生きもの語り研究所、大学、県・市教育委員会、佐渡市

d 予算等…佐渡市教育委員会、佐渡市

ウ 世界農業遺産認定地域との子ども交流

- ・国内のG I A H S 認定地域との子ども交流は、2000 年から毎年開催しており、石川県能登地域や宮城県大崎市の子どもたちと交流を深めている。他の地域と自分の住んでいる地域を比較することで、今まで関心がなかった地域の良さに気付く効果がある。2020 年はコロナ禍のため、実施できなかったが、引き続き実施していく。

a 成果目標…世界農業遺産認定地域との子ども交流回数

年 2 回 (R 1) → 年 2 回 (R 7)

b 貢 献 度…他の認定地域と連携した子ども交流と世界農業遺産の理解

c 関 与 者…国内の世界農業遺産認定地、佐渡市

d 予 算 等…佐渡市、国内の世界農業遺産認定地

エ 体験も含む新たな環境学習プログラムの開発と実践

- ・世界農業遺産は、取り組みやシステムを認定するプログラムであることから、その価値やシステムの機能などについて学ぶためには体験活動が有効である。現在、学校の授業や修学旅行などで生きもの調査やビオトープなどの体験活動を実施しているが、それだけに留まらず、食育までつなげるプログラム環境学習プログラムを開発し実践する。

a 成果目標…環境学習プログラム数 3 件 (R 2) → 10 件 (R 7)

b 貢 献 度…世界農業遺産を理解するための環境学習プログラムの増加

c 関 与 者…新潟大学、佐渡生きもの語り研究所、佐渡市教育委員会、佐渡市

d 予 算 等…佐渡市

3 地域の伝統的な知識システム

A 脅威及び課題の分析

- ・ 棚田地域は、良好な米など農産物の供給地としてだけでなく、国土の保全、水源の涵養や急峻な斜面に連なる棚田の景観などの多面的な機能を有し、特に佐渡の場合はトキを象徴とする多種多様な野生動植物の生息・生育地として重要な場所である。また、農業と生活が一体となった中から生まれた伝統行事や祭り、民俗芸能などの多彩な伝統文化が綿々と継承されている地域でもある。しかし、傾斜のある地形や安定的な農業用水の確保が困難であることなど、厳しい条件の中で棚田を保全していくには多大な労力が必要であり、現状では過疎化、高齢化が進んでいる。棚田地域を活性化させ、担い手を確保することで多面的機能の維持・発揮を図っていくことが重要である。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 指定棚田地域振興活動の推進

ア 中山間地域の生産基盤の維持、整備

- ・ 中山間地域等直接支払交付金等を活用し、棚田を含む中産地域等における農道、農業用排水路などの生産基盤の維持、整備を行う。また、コスト削減、労力軽減を図るため、共同施設の利用拡大を進めるとともに、農作業の共同化を推進する。

a 成果目標…佐渡棚田協議会会員数（個人含む）

58 団体（R 2）→ 70 団体（R 7）

中山間地域直接支払制度における集落協定数

176 団体（R 2）→ 176 団体（R 7）

中山間地域直接支払制度における耕作面積

7,007ha（R 2）→ 7,000ha（R 7）

b 貢献度…中山間地域の生産基盤の維持、整備

c 関与者…佐渡棚田協議会、新潟県、佐渡市

d 予算等…関係省庁、新潟県、佐渡市

イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮

- ・野生下のトキは佐渡全域に生息範囲を広げていることから、環境保全型農業の取り組みを推進し生息環境の保全を図る。
- ・佐渡棚田協議会の統一ブランドである「佐渡棚田米」の販売のさらなる促進を図る。また、佐渡市認証米「朱鷺と暮らす郷」の枠組みの中に、棚田地域で栽培された棚田米の枠を設けられるか検討する。
- ・小倉千枚田における棚田オーナー制について、棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大を図るため、地元による管理や運営等の検討を進め、他の地域も取り組める持続可能なモデルを確立する。

- a 成果目標…小倉千枚田オーナー区画 63 区画 (R 2) → 63 区画 (R 7)
- b 貢献度…棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮
- c 関与者…佐渡棚田協議会、佐渡市、地域
- d 予算等…関係省庁、新潟県、佐渡棚田協議会、オーナー負担金、佐渡市

ウ 担い手の確保

- ・集落営農組織の設立や法人化等の組織化に向けた話し合いや、就農イベント等の機会を活用し、就農者の掘り起こしにつなげる。また、都市地域からの移住者である「地域おこし協力隊」が棚田地域と都市との橋渡し役として積極的に関与し情報発信を行うことで、地域外との連携・交流拡大を図る。

- a 成果目標…地域おこし協力隊の定着数 (延べ) 35 名 (R 2) → 50 名 (R 7)
地域おこし協力隊の定着率 80% (R 2) → 90% (R 7)
新規就農者数 24 人 (R 2) → 30 人 (R 7)
- b 貢献度…棚田における都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大
- c 関与者…佐渡棚田協議会、佐渡市、地域
- d 予算等…関係省庁、佐渡市

4 文化、価値観及び社会組織

A 脅威及び課題の分析

- ・離島である佐渡島には、佐渡金銀山の繁栄や千石船の往来等によって、多様な芸能や文化が流入し、農業をはじめとする様々な産業と共に継承されてきた。島の至るところで形成された地域コミュニティの集落において、伝統的な芸能や文化が生活の中に息づいている。この島内に残る農文化を継承していくため後継者と保存団体の育成、子どもたちが芸能に触れる機会を芸能教室などで増やし、世界農業遺産を通して島に残る伝統芸能を担っていく人材を育成する。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 佐渡の農文化の理解、再認識

ア 佐渡の農文化の再認識と伝統芸能の保存・継承

- ・佐渡の伝統芸能と農業は密接な関係があることを再認識しながら、現存する能や鬼太鼓などの伝統芸能の保存・継承に努める。

a 成果目標…能舞台現存数 35 棟 (R 2) → 35 棟 (R 7)

鬼太鼓保存件数 約 120 件 (R 2) → 約 120 件 (R 7)

b 貢献度…農業と伝統芸能の密接な関係と継承すべき価値を知る

c 関与者…佐渡文化財団、佐渡芸能伝承機構、佐渡市教育委員会、佐渡市、
地域

d 予算等…佐渡文化財団、佐渡市教育委員会

イ 集落モニタリング、島内保存会の交流

- ・島内各地に残る伝統芸能であるが、近隣の集落の伝統芸能をじっくりと鑑賞する機会は少ない。少子高齢化による担い手不足に悩む保存会同士で交流し、同じ課題について情報交換をしたり集落に伝わる芸能を披露したりして相互の理解を深め課題の解決を図る。また、その様子を発信して佐渡G I A H Sの多彩で奥深い農文化をPRする。

a 成果目標…保存会交流会回数 (延べ) 0 回 (R 2) → 10 回 (R 7)

b 貢献度…継承団体の情報共有と課題解決

c 関与者…佐渡文化財団、佐渡芸能伝承機構、佐渡市教育委員会、地域

d 予算等…佐渡文化財団、佐渡市

ウ 他の世界農業遺産認定地域との芸能交流

- ・国内の世界農業遺産認定地域と芸能を通して交流を深め、芸能のルーツや農業遺産システムとのつながりを理解する。

a 成果目標…世界農業遺産認定地域との芸能交流回数

年0回（R1）→ 年2回（R7）

b 貢献度…国内の世界農業遺産認定地域と連携した芸能交流

c 関与者…国内の世界農業遺産認定地域、佐渡市

d 予算等…佐渡市、国内GIAHS認定地

5 ランドスケープ及びシースケープの特徴

A 脅威及び課題の分析

- ・これまでG I A H S の推進活動が続ける中で見えてきたのは、里山の崩壊が進むことによる文化と集落喪失の危機感である。生きものを育む農法をはじめ、これまでの 10 年間で実践してきたことで蓄積してきた効果、経験、知恵を教育やツーリズム等に活用して里山の再生と文化と集落の存続につなげていかなければならない。
- ・今後の 10 年の目標にもつながるが、世界農業遺産等専門家会議において助言いただいた「全体のストーリーや体系的な繋がりを整理」について、多様なステークホルダーとの連携強化を図る。また、国内で初めてとなる世界農業遺産認定 10 周年を記念するフォーラムを開催し、単なる記念事業に終わることなくこれまで 10 年間の総括、次のステージへの目標設定、将来の日本農業にとって有益となる「佐渡版農業モデル」を島内外に発信する。

B 脅威及び課題への対応策

(1) 世界農業遺産ブランドの活用

ア 佐渡市世界農業遺産ブランドマークの活用

- ・2018 年に決定した佐渡市世界農業遺産ブランドマークの普及啓発を通じて、佐渡産品の P R に活用し販路の拡大につなげる。
 - a 成果目標…佐渡市世界農業遺産ブランドマークの述べ申請件数（延べ）
82 件（R 2） → 100 件（R 7）
 - b 貢献度…世界農業遺産に認定された佐渡産品の販路拡大
 - c 関与者…J A、佐渡市
 - d 予算等…佐渡市

イ 世界農業遺産認定 10 周年記念フォーラムの開催

- ・世界農業遺産認定 10 周年を記念するフォーラムを開催し、単なる記念事業に終わることなくこれまで 10 年間の総括、次のステージへの目標設定、将来の日本農業にとって有益となる「佐渡版農業モデル」を島内外に発信する。また、同じく 10 周年を迎える石川県能登地域と連携し、世界農業遺産の認知度向上につなげる。

- a 成果目標…世界農業遺産認定 10 周年記念フォーラム開催 1 回 (R 3)
- b 貢献度…世界農業遺産の認知度向上と、佐渡版農業モデルの発信
- c 関与者…関係省庁、新潟県、佐渡市
- d 予算等…佐渡市

(2) トキの生態を学びながら観察する観光活用

ア トキの森公園でトキの生態を学ぶ

- ・トキの森公園は、トキまで約 2 cm の距離で子育ての様子を観察したり、トキの生態を知ることができる施設である。屋内施設であることから天候に左右されず安定したツアー組み立てに活用が可能である。

- a 成果目標…トキの森公園来場者数 142,669 人 (R 2) →180,000 人 (R 7)
- b 貢献度…トキの生態を学べる施設活用
- c 関与者…環境省、新潟県、トキガイド協会、佐渡市
- d 予算等…トキ環境整備基金、佐渡市

イ 「トキのテラス」を活用したツアー

- ・2020 年にオープンした「トキのテラス」は、島の中央部に位置していることから国中平野を一望し、トキの生態を支える環境を学ぶことができ、他のツアーと連動して活用することで相乗効果が期待できる。

- a 成果目標…「トキのテラス」を活用したツアー
- b 貢献度…トキの生態を支える環境を学べる施設利用とツアーの相乗効果
- c 関与者…環境省、新潟県、佐渡観光交流機構、トキガイド協会、佐渡市
- d 予算等…佐渡観光交流機構、佐渡市

ウ 自然の中で観察するツアーの造成

- ・野生下におけるトキの個体数も増えてきたことから、今後は知見ある有識者や専門的な知識・技能を有したガイドと共に、早朝、ねぐらを一斉に飛び立つトキの群れや夕暮れ時に夕日を背にしたトキを自然の場で観察できるようなツアー造

成を進める。特定の見学ツアーを造成することにより、トキの生態を脅かすことのないよう見学者の人数や見学時期・時間などの制限を設けて、見学者の行動をコントロールする。また、早朝や夕暮れなど見学時間帯を意識し旅行者には日帰りではなく、宿泊を伴うような経済的効果も考慮したプランも視野に入れる。

- a 成果目標…生態系を守る野生観察のツアー造成 0件 (R 2) → 検討
- b 貢献度…生態系を守り持続可能な野生観察のツアー造成
- c 関与者…環境省、新潟県、佐渡観光交流機構、トキガイド協会、佐渡市
- d 予算等…佐渡観光交流機構、佐渡市

(3) 世界農業遺産ツーリズムによる交流人口の拡大

ア 「佐渡めぐり塾」の実施

・佐渡は、世界農業遺産に選ばれ、さらに複数の国連プログラムに取り組んでいる資産に富んだ島である。これまで実施してきた島内の資産を親子で巡る「めぐり塾」というツアーを継続して実施することで、新たな資産を掘り起こす。また、ツアー後のアンケート調査などで、小グループで楽しむエコツアーに活用するためのデータや、これまで観光圏に含まれていなかった地域に対して、協力していただく住民の負担や適正な収容人数などオーバーツーリズムを未然に防ぐデータなどを蓄積する。その他、環境を考えるテーマに特化して、地元ガイドと巡る散策ツアーやコロナ禍を考慮したオンラインを活用したツアーの造成を佐渡観光交流機構等と連携して行う。

- a 成果目標…「佐渡めぐり塾」の延べ参加人数 356名 (H30) →500名 (R 7)
- b 貢献度…世界農業遺産に選ばれた島の新たな宝・資産の掘り起こし
- c 関与者…佐渡市
- d 予算等…佐渡市

イ 体験・体感型、棚田散策ツアーの造成、新たなコンテンツの活用

・その他、環境を考えるテーマに特化して、地元ガイドと巡る散策ツアーやコロナ禍を考慮したオンラインを活用したツアーの造成を佐渡観光交流機構等と連携して行う。

- a 成果目標…ツアー造成数 0件（R2）→ 3件（R7）
- b 貢献度…世界農業遺産の理念を見える化、体感できる。
- c 関与者…佐渡観光交流機構、新潟県、佐渡市、地域
- d 予算等…佐渡市

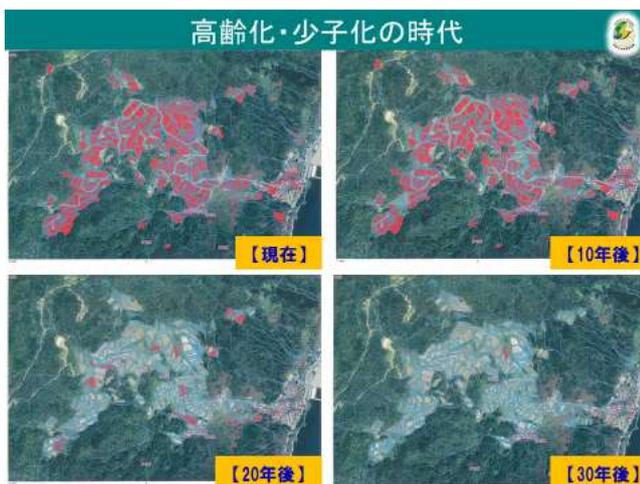
第3 モニタリング方法

保全計画の進捗については、佐渡市世界農業遺産推進会議で確認し、専門家や研究機関など第三者による点検も適宜受けながら、「トキと共生する佐渡の里山」の農林水産業システムに活用していく。

佐渡市が2022年に策定を予定している「佐渡市総合計画」について、本計画で定義した目標や指標等を共有し、推進事業の方向性を整える。また、佐渡市生物多様性佐渡戦略の見直しについて2021年度中に検討予定であるが、COP15においてポスト2020生物多様性枠組の検討、そして、国内における次期生物多様性国家戦略の策定などの動向をみながら、適宜、見直しを行っていく。

第 4 考察

佐渡は世界農業遺産に認定されてから間もなく10年を迎える。この10年は佐渡にとっても挑戦の月日であり、日本の農業現場においても高齢化が進む中で、技術革新や栽培方法の改善などを進めながら営みを続けている。下図は、市内のある中山間地域において、85歳を農業の引退と仮定した場合に、10年ごとにどの程度の耕作地が放棄されていくかをシミュレーションしたものである。10年ごとに減少傾向が見られる中、20年後、団塊の世代が引退するとほとんど耕作されなくなってしまうことが伺える。このシミュレーションでは、新規就農者や現在の担い手などによる農地の継承が考慮されていないため、現実にはもう少し緩やかな減少傾向になると思われるが、人口減少に伴う影響は、すでに現実のものとして見え始めている。



このような状況の中で、持続可能な取り組みを進めていくためには、さらなる世界農業遺産の活用が急務である。朱鷺と暮らす郷の認証農家等については、毎年、推進フォーラムを開催し、生物多様性の重要性や先進地域の取り組みを学ぶ場を提供し情報を共有している。また、「朱鷺と暮らす郷」の認証要件については、関係者で協議し要件を見直し、新たな要件の追加や除外など柔軟に対応してきた。若者の農業や田んぼ離れの課題対策として、2017年から「田んぼアート」を実施し、年間1万人の見学者が訪れている。また、人気ゲームソフト「あつまれどうぶつの森」の中に架空の「さどが島」を公開し、G I A H S 自体の認知度向上に努めた。



田んぼアートの実施



人気ゲームを活用したG I A H S の認知度向上

本地域が取り組むこの世界農業遺産の活動は、まだまだ改善点など課題が多くある。しかし、認定から実践してきた地道な活動は、生態系の保全と農業経済を両立させる持続可能な農業システムを体現してきた。この意義ある活動は、環境や社会情勢に対応していかなければならない。近年、これまで体験したことのない災害の発生や気候の変化など地球規模の変動に対して柔軟な対応が求められている。

農林水産省は、2050年までに脱炭素社会を目指す政府の方針も踏まえ、環境負荷の少ない持続可能な農林水産業の実現に向け有機農業の面積を国内の農地の25%にあたる100万haまで拡大する目標を新たな戦略として設ける方針である。

これまで佐渡で展開してきた取り組みが、国策の中でも組み込まれ国内の各地で広がっていく中で、現在抱えている課題と将来のビジョンを見据えながら、先進的な取り組みに挑戦していかなければならない。



現在、世界農業遺産に選ばれた島は国内では佐渡島しかない。島の特性を活かした取り組みを実践していくため、この第3期保全計画で目指すべき姿は下記のとおりである。

- ・環境保全型農業を含め、佐渡の農業全体の担い手を確保し、トキと人が共存し続けられる里山環境を維持する。
- ・佐渡で実践している農林水産業システムが、脱炭素社会にとっても有効であるかを検証し、資源の再利用、資源の再循環について産業・住民レベルで積極的に取り組む。
- ・人口減少をプラスにとらえ、適用できるデジタル技術やモビリティ技術などを積極的に取り込み、地域の活性化につなげると共に選ばれる「佐渡の農業」を構築していく。

地域循環共生圏とSDGs未来都市へ向けた活動の中で、関係人口から交流人口、そして、定住人口の拡大を図り、「課題先進地域」から「課題解決先進地域」として国内外にその自立・分散型の持続可能な地域モデルを示す。

佐渡市は、世界農業遺産、ジオパーク、世界文化遺産の3つの国連プログラムに取り組んでいることから、国連で採択された2030年までに達成すべき17の持続可能な開発目標(SDGs)で掲げている目標に関連した取り組みをすでに実践しているといえる。今後は、目指す目標を明確に打ち出し、同じ目標を掲げる島内外の企業や研究機関等と共に持続可能な地域づくりに向けた取り組みを加速していかなければならない。また、アジアを中心に当市と同じ課題を持つ地域について、FAOやJICA(国際協力機構)を通じて視察やオンライン等で課題を共有し、課題の解決に向け連携の強化を図る。

国内で初めて世界農業遺産に認定された誇りと責務を忘れず、常に地域の課題解決に向けて取り組み続けるチャレンジ精神を持ちながら将来に向かって進んでいく必要がある。



世界農業遺産保全計画 取組一覧

新潟県佐渡市

取組	ページ	実施者	実施時期					指標	
			R3	R4	R5	R6	R7	現状	目標
1 食料及び生計の保障									
(1) 農業遺産システムの効果検証     									
ア 朱鷺と暮らす郷づくり認証制度の見直し	11	◎朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会、JA、研究機関、佐渡市、地域	○	○	○	○	○	・朱鷺と暮らす郷認証農家数(R2)393戸 ・朱鷺と暮らす郷認証面積(R2)1,044ha	400戸(R7) 1,100ha(R7)
イ 認証農家に対する生物多様性の意識・技術の向上	12	◎朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会、JA、佐渡市、地域	○	○	○	○	○	認証農家に対する勉強会・研修会の実施回数 毎年実施	毎年実施
(2) 新たな米政策に対応した水田農業の確立      									
ア コシヒカリ等の品質向上に向けた栽培指導	12	◎新潟県佐渡農業普及指導センター、JA、佐渡市、地域	○	○	○	○	○	佐渡米未来プロジェクト「品質向上90」サポーターのコシヒカリ1等米比率 73.9%(R2)	90%(R7)
イ 大区画ほ場整備と環境保全	13	◎新潟県、佐渡土地改良協会、JA、佐渡市	○	○	○	○	○	佐渡の大区画ほ場の新しい基盤整備についての検討	関係機関との検討
(3) 販路拡大の研究・推進    									
ア 消費者まで届く販売戦略の研究	15	JA、◎佐渡市	○	○	○	○	○	・サドメシラン店舗数 115店舗(R2)	130店舗(R7)
イ 都市部への学校給食導入の促進	15	JA、◎佐渡市	○	○	○	○	○	導入学校数(述べ) 0校(R2)	延べ10校(R7)
ウ ふるさと納税、返礼品の強化	15	佐渡市	○	○	○	○	○	ふるさと納税の寄付額 2億5千万円(R2)	3億5千万円(R7)

2 農業生物多様性

(1) トキ保護増殖事業計画に基づいたトキ野生復帰の推進



ア 生態環境の保全・再生とモニタリング	18	◎環境省、人・トキの共生の島づくり協議会、新潟県、佐渡市	○	○	○	○	○	野生下のトキの個体数(推定) 442羽 (R2)	安定的な増加
イ 普及啓発等	19	◎環境省、人・トキの共生の島づくり協議会、新潟県、佐渡市	○	○	○	○	○	トキファンクラブ会員数(累計) 8,395人 (R2)	10,000人 (R7)

(2) 佐渡市生物多様性佐渡戦略の見直し



ア 生物多様性佐渡戦略の見直し	19	◎佐渡市生物多様性佐渡戦略推進会議、佐渡市	○	○				トキと暮らす島 生物多様性佐渡戦略の見直し	見直し
イ 生きもの調査を含むデジタルツールの開発	19	◎佐渡生きもの語り研究所、朱鷺と暮らす郷づくり推進協議会、新潟大学、佐渡市	○	○	○	○	○	デジタルツールの開発に向けた検討	検討、開発
ウ 生物多様性市民アンケートの実施	20	◎佐渡市生物多様性佐渡戦略推進会議、佐渡市	○					生物多様性の認知度 78.4%(H27)	80.0%(R3)
エ 世界農業遺産新潟県民アンケートの実施	20	新潟県					○	農業遺産の認知度 45.2%(R2)	70.0%(R7)

(3) 環境学習(食育)の推進



ア 佐渡Kids生きもの調査隊の推進	21	◎佐渡市、佐渡市教育委員会	○	○	○	○	○	隊員の延べ人数 402人(R2)	延べ550人 (R7)
イ 小学校から大学まで連動した教育カリキュラムの検討と構築	21	◎佐渡生きもの語り研究所、大学、県・市教育委員会、佐渡市	○	○	○	○	○	小学校から県内の大学まで連動した教育カリキュラムの検討	検討
ウ 世界農業遺産認定地域との子ども交流	22	国内の世界農業遺産認定地、◎佐渡市	○	○	○	○	○	子ども交流会回数 年2回(R1)	年2回(R7)

エ 体験も含む新たな環境学習プログラムの開発と実践	22	◎新潟大学、佐渡生きもの語り研究所、佐渡市教育委員会、佐渡市	○	○	○	○	○	環境学習プログラム数 3プログラム(R2)	10プログラム(R7)
3 地域の伝統的な知識システム									
(1) 指定棚田地域振興活動の推進									
									
ア 中山間地域の生産基盤の維持、整備	23	◎佐渡棚田協議会、新潟県、佐渡市	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡棚田協議会会員数(個人含む)58団体(R2) ・中山間地域直接支払制度における集落協定数 176団体(R2) ・中山間地域直接支払制度における耕作面積 7,007ha(R2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・70団体(R7) ・176団体(R7) ・7,000ha(R7)
イ 棚田等の保全を通じた多面にわたる機能の維持・発揮	24	佐渡棚田協議会、◎佐渡市、地域	○	○	○	○	○	小倉千枚田オーナー区画 63区画(R2)	63区画(R7)
ウ 担い手の確保	24	佐渡棚田協議会、◎佐渡市、地域	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の定着数(延べ) 35名(R2) ・地域おこし協力隊の定着率 80%(R2) ・新規就農者数 24人(R2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・50名(R7) ・90%(R7) ・30人(R7)
4 文化、価値観及び社会組織									
(1) 佐渡の農文化の理解、再認識									
									
ア 佐渡の農文化の再認識と伝統芸能の保存・継承	25	◎佐渡文化財団、佐渡芸能伝承機構、佐渡市教育委員会、佐渡市、地域	○	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・能舞台現存数 35棟(R2) ・鬼太鼓保存件数 約120件(R2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・35棟(R7) ・約120件(R7)
イ 集落モニタリング、島内保存会の交流	25	◎佐渡文化財団、佐渡芸能伝承機構、佐渡市教育委員会、地域	○	○	○	○	○	保存会交流会回数 0回(R2)	延べ10回(R7)
ウ 他の世界農業遺産認定地域との芸能交流	26	国内の世界農業遺産認定地域、◎佐渡市	○	○	○	○	○	国内の世界農業遺産認定地域との芸能交流回数 年0回(R2)	年2回(R7)

5 ランドスケープ及びシースケープの特徴									
(1) 世界農業遺産ブランドの活用 									
ア 佐渡市世界農業遺産ブランドマークの活用	27	◎JA、佐渡市	○	○	○	○	○	ブランドマークの申請件数(延べ) 82件 (R2)	100件 (R7)
イ 世界農業遺産認定10周年記念フォーラムの開催	27	関係省庁、新潟県、◎佐渡市	○					フォーラムの開催準備	1回 (R3)
(2) トキの生態を学ながら観察する観光活用 									
ア トキの森公園でトキの生態を学ぶ	28	環境省、新潟県、トキガイド協会、◎佐渡市	○	○	○	○	○	トキの森公園来場者数 142,699人 (R1)	180,000人 (R7)
イ 「トキのテラス」を活用したツアー	28	環境省、新潟県、◎佐渡観光交流機構、トキガイド協会、佐渡市	○	○	○	○	○	「トキのテラス」を活用したツアー	活用
ウ 自然の中で観察するツアーの造成	28	環境省、新潟県、◎佐渡観光交流機構、トキガイド協会、佐渡市	○	○	○	○	○	野生観察ツアーの造成 0件 (R2)	検討
(3) 世界農業遺産ツーリズムによる交流人口の拡大 									
ア 「佐渡めぐり塾」の実施	29	佐渡市	○	○	○	○	○	「佐渡めぐり塾」の延べ参加人数 356人 (H30)	500人 (R7)
イ 体験・体感型、棚田散策ツアーの造成、新たなコンテンツの活用	29	◎佐渡観光交流機構、新潟県、佐渡市、地域	○	○	○	○	○	コンテンツ開発件数(ツアー造成含む) 0件 (R2)	3件 (R7)

注1)実施者について、実施者が複数存在する場合には、責任者に◎を付けてください。

注2)「指標」は可能な限り定量的なものを記入してください。

注3)セルは必要に応じて挿入、削除してください。

注4)「ページ」には保全計画本文の該当するページを記入してください。